

## 1 開 会

出席 (学 校) 中川校長、西村副校長、木下教頭(全日)、笹原教頭(定時)、岩橋事務長  
(評議員) 春田淳一、黒元浩志、太田隆久、岡田理恵、前野史賀 <敬称略>

## 2 内 容

(1) 委嘱状伝達及び校長挨拶

(2) 着任者紹介(西村副校長、岩橋事務長)

(3) 平成30年度北海道滝川高等学校学校経営方針について(中川校長)

・学校経営方針、適正配置計画、SSHの状況、働き方改革、卒業生の進路及び部活動大会結果

(4) 学校評議員会開催計画について(西村副校長)

(5) 学校概要説明

・全日制 学校概要について(木下教頭)

・高等学校英語力向上事業タイプⅢ研究指定校について(副校長)

・定時制 学校概要について(笹原教頭)

(6) 意見交換

## 【全日制について】

・春田評議員 : スーパーサイエンスハイスクール(以下、SSHと記載。)指定校を終えて1年の経過措置校ということだが、その仕組みを伺いたい。

(回答) : もう1度、経過措置校として取り組みながら2期目の再申請をしていく。いままでどおり教育の質を落とすことなく進めて参りたい。

・岡田評議員 : SSHの審査をとるための条件について伺いたい。

(回答) : 生徒の活動状況と研究成果をより明確に示していく必要がある。

・岡田評議員 : 高等学校英語力向上事業タイプⅢ研究指定校のメリットとデメリットを伺いたい。

(回答) : 英語の活用場面を想定した3タイプの学習プログラムがあり、タイプⅠ「外国人旅行者に対応する」、タイプⅡ「外国企業との取引に関わる」、タイプⅢ「海外で学ぶ・生活する」のうち、本校はタイプⅢの研究指定校になる。英語によるレポート作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。グローバルな人材育成に向けた英語力向上推進事業の一環であり生徒のメリットは大きい。

・岡田評議員 : 英語学習の負担にならないだろうか。また、理科と比べると英語の話はPRしていない。中学生にとって志望校のメリットが勉強の励みになる。

(回答) : PRについては、ご意見を参考にさせていただき活性化していきます。

・黒元評議員 : 7時間授業と土曜授業の教師と生徒の負担が知りたい。

(回答) : 弾力的に授業を組める。1コマ45分授業だが50分授業に換算することができ、生徒に不利益はない。教員は50分授業に慣れており、あと5分ほしいと思うこともある。

・前野評議員 : 英語力向上に関しては、受験に強い学校ではなく英語に強い学校、理数科だけではなく全体が英語に強くなる学校にしてほしい。関連して、英語力の各種検定試験について伺いたい。

(回答) : 生徒には、高大接続で点数になる検定試験や受験料の安い検定試験の情報提供をしていく。

## 【定時制について】

・太田評議員 : 定時制入学は、50代、60代、70代でもできるのか。

(回答) : 年齢は関係ないです。入学希望の方がいればぜひ教えてください。

・岡田評議員 : 学校経営シラバス(定時制)の中で、SC、PTの活用とあるが、内容を教えて欲しい。また、定時制の生徒を増やすために新聞や広報、地方誌の活用を検討してはどうか。

(回答) : SC(スクールカウンセラー)PT(パートナーティーチャー)については生徒理解で活用したい。また、定時制の生徒確保は課題であり、検討したい。

(7) 閉 会 校長挨拶